

チェック!

厳しく衛生管理された 高品質の卵を消費者に



今回のテーマは
GPセンターでの
衛生管理
についてです。

卵はほかの畜産物とは異なり、農場から出たそのままの形で消費者に届きます。農場は鶏を飼育している場所ですから、当然、糞便などさまざまな細菌を含んだものがあちこちにありま。そこから出てくる卵なので、そのままでは多くの細菌が付着しています。その細菌を減らし、卵をきれいにするのがGPセンターです。もし、GPセンターで汚れを落としきれなかったり、逆にGPセンターが汚れていたら、汚れた卵が消費者に届いてしまいます。

洗卵前の卵には、卵殻に多くの細菌が付着しています。その数は、多くの研究者がさまざまな報告していますが、100万個以上付着していることもあるようです。そのような卵が、GPセンターで洗卵後には大きく細菌数が減少し、100個以下（検出限界以下）になる場合もあります。したがって、GPセンターにおける日々の衛生管理はとても重要なのです。

●洗卵工程での注意点

GPセンターでは次亜塩素酸ナトリウムを用いて、卵の消毒を行うところが多いようです。この濃度は150ppm以上と定められていますが、規定量に合わせていても作業が進んでいく中で、有機物の混入などの影響によって低下してきます。必ず定期的に濃度を確認し、記録しておきましょう。

水の温度も重要です。卵よりも低い温度の水で洗うと、卵殻表面の細菌が卵の中に入り込んでしまいます。温度管理をおろそかにしていると、卵を逆に汚してしまいクレームの原因となるので注意しましょう。

また、乾燥工程にも注意が必要です。乾燥ブラシが汚れていたり、乾燥が不十分だと、保管や流通の過程で細菌が卵殻を通して卵の中に入り込むことがあります。作業中は、洗浄水の温度と薬液濃度を管理し、乾燥をしっかり行うことが大切です。

さらに、洗卵、乾燥後は卵を低温保管することも品質保持には重要です。

●作業終了後の清掃

作業が終わったら、GPマシンや床などの清掃・消

毒をしっかりと行ってください。もし清掃しなかったら、作業中の汚れがそのまま残り、次の日の卵を汚すことになってしまいます。一生懸命やってもなかなか状況が改善されない場合は、全体を見渡してみましょう。もしかしたら作業者の動線の問題で、せっかききれいにしたところを別の人が誤って汚してしまっているということもあります。

●GPチェックコースの活用を

細菌が残っているということは、人間の目ではなかなか確認することができません。目に見える汚れならすぐに落とすことができますが、細菌による汚染は検査をしてみなければわかりません。そのようなときにはDr.ジニアのクリニックセンターで行っているGPチェックコースを利用してみてはいかがでしょうか。GPセンターの環境や各工程の拭き取り検査をすることで、汚れを数字という目に見える形に表すことができます。GPセンターの管理がうまくいっているのか、従業員の行っている清掃は適切なのかを検証することができます。ぜひご活用ください。

拭き取り微生物検査結果(例)

検体 No.	鶏舎 No.	一般生菌数	大腸菌群数
1	エッグローダー下の床	2.20×10^3	$< 2.00 \times 10^2$
2	エッグローダー吸引ゴム	4.00×10^2	$< 2.00 \times 10^2$
3	給卵部コロコンベアローラー	6.20×10^3	$< 2.00 \times 10^2$
4	洗浄ブラシ	$< 2.00 \times 10^2$	$< 2.00 \times 10^2$
5	乾燥ブラシ	$< 2.00 \times 10^2$	$< 2.00 \times 10^2$
6	ベルトローラー	$< 2.00 \times 10^2$	$< 2.00 \times 10^2$
7	バック搬送ベルト	$< 2.00 \times 10^2$	$< 2.00 \times 10^2$



※検査結果の見方について
一般生菌数：×10の右肩の2・3の数字は乗と読みます。この数字が5や6だと改善が必要です。数字の上の+・-は、検出限界以下は-、検出限界以上の数字が出たら+と表記します。
大腸菌群数：+が出たら改善が必要です。

GPセンターでの拭き取り検査の様子